

学生の資質の向上に対する人形劇制作の効果

永瀨 美香子¹⁾, 矢野 洋子²⁾, 田中 敏明³⁾

Effect of puppet production to improve the quality of students

Mikako NAGAFUCHI¹⁾, Yoko YANO²⁾, Toshiaki TANAKA³⁾

Abstract

Recently, Kindergarten worker's human relations such as ability of communication, social adaptation, vigilant attention, are declining. Therefore, to create a trust filled relationship with children and parents has become more difficult. Furthermore, this has been one of the causes of the staff's frequent turnover. To improve the human relations among students is a responsibility of the training school.

This study's purpose is to clarify the effect of the production of puppet theater which is one of the activities in our school. The effect was seen in the following topics:①Involvement with the student who do not want to join in ②Improve mutual understanding among students through discussion. ③Enjoy a group activity ④Compromise with others who has different thoughts.

KEY WORDS : human relations power, ability improvement of the student, puppet show

1. はじめに

幼稚園教諭の資質の向上については2002年の「幼稚園教員の資質向上について - 自ら学ぶ幼稚園教員のために」¹⁾において、幼稚園教諭の専門性・資質として、教員同士がコミュニケーションを図りつつ、教員集団の一員として共同関係を構築していくことの大切さが述べられている。また、2008年改訂の「保育所保育指針」²⁾においても一人一人の職員の資質向上や保育者同士の共通理解、協働が記されている。以上のことから保育者に求められる資質の重要な一つに他の職員とのコミュニケーション能力があると言える。しかし、実習巡回や幼稚園と養成校の懇談の場などで、年々保育者養成校学生の人と関わる力が落ちてきているとい

う指摘を受けることがある。また、保育者の早期離職者が多いことも問題になっている。川俣³⁾は、早期離職の原因の1つとして「人間関係」の問題を挙げている。これは、養成校の卒業生に人間関係能力が十分についていないことが一因だと考えられる。若い保育者の主体性・積極性の不足や受容力・共感力の不足が認められていることは善本⁴⁾の研究によっても明らかにされている。養成校の段階で、自分の気の合う仲間だけでなく、様々な人との関わりや葛藤の機会を作り、人と関わる力を付けていく必要性がある。

熊田⁵⁾は、人形劇を媒体にして「人との関わり方」「人の生き方」を子どもに伝えていくことは有効であり、基本的な保育技術を学ぶことは、保育者としての資質の向上につながると述べている。しかし、これま

1) 麻生医療福祉専門学校
2) 九州女子短期大学子ども健康学科
3) 福岡教育大学

1) Aso Medical and Welfare College
2) Kyushu Women's Junior College
3) Fukuoka University of Education

での研究では、人形劇制作における人と関わる力においての資質向上の効果は明らかになっていない。

本研究では、「養成校A」における1年次5月に取り組んだグループでの人形劇の制作・保育園での発表（1日体験）を通して、学生の資質向上にどのような効果があったのかを明らかにし、今後の授業のあり方や課題について検討する。

2. 方法

2.1 対象者：

保育者養成校Aに在籍する保育士・幼稚園教諭を目指す1年生32名（実習未経験）

2.2 活動のプロセス：

- ①日頃関わりの少ない学生を意図的に8名ずつのグループに分け保育園の指定する年齢の中から体験したいクラスを決定
- ②グループで子どもたちに伝えたいテーマを決め、話作りをする
- ③グループで人形と小道具を制作する
- ④授業時間と自主的に時間を作っての練習
- ⑤保育園での人形劇発表（保育園1日体験）
- ⑥振り返り

2.3 調査

（アンケート調査およびインタビュー）

人形劇の話作り、人形劇制作・練習・保育園での発表・振り返りを通しての記録をもとにし①人形劇制作・活動全体におけるアンケート・感想②学生の人形劇を通しての人と関わる力のアンケート③インタビュー、を行った。

2.4 活動および調査期間

活動期間：平成23年5月～7月

調査期間：平成23年5月～8月

3. 結果と考察

3.1 人形劇制作・活動全体におけるアンケート

（1）人形劇制作・練習・保育園での発表を通して行う前と後でのクラスメイトとの関わりの変化

表1 クラスメイトとの関わりの変化

| | | |
|----------------|-----|-------|
| ①変化がとてもあった | 3人 | 9.4% |
| ②変化があった | 19人 | 59.3% |
| ③多少ではあるが変化があった | 8人 | 25.0% |
| ④全く変化がない | 2人 | 6.3% |

発表を行った後でのクラスメイトとの関わりの変化の調査をした結果、人形劇制作・練習・発表の活動において何らかの変化があった学生が30人で全体の93.8%であった。

（2）①～③の人は人形劇を行ってどのような変化がありましたか。④の人は活動を通じて感じたことは何ですか。（自由記述）

①～④段階における学生の実際の感想からの抜粋

<①変化がとてもあったグループ>3人

（◎は回答者複数人）

- ・物語のセリフを考える時、班の皆で話し合う事で今まで話さなかった人とも話すようになったことやこの人にはこんな良い所があるのだと分かったこと。班の中にはあまり話したことがない友達がいたが話し合いで沢山話をして人形劇以外にも話せるようになった。仲良くなるきっかけになって良かったと思う。

- ・皆がどんな性格なのか良く分かった。こんなにいい人がいるのだなと気が付いた。出会えて良かったと思う。逆に合わない人もいることが分かってきた。

- ・皆の個性が人形劇に出ていたからこそ、そこからその人の事を知ることができたので楽しかった。

<②変化があった>19人

- ◎・今まで話さなかった人と話をし、作ることが苦手な箇所を助けてもらえて友達の優しい所を発見できた。

- ・話したことがない人でもある人でも色々なことを話したことでコミュニケーションがとれるようになった。

- ◎・最初はなかなか活動が進まなかったけれど自分の意見を言い合った事で友達と仲が深まり良い人形劇ができたので良かった。

- ◎・困った時の助け合いなど自然と声を掛けられるようになった。グループ内でぶつかり雰囲気が悪くなったこともあったが、終わった後は仲も良くなり意見を言い合えるようになった。

- ◎・良くする為に沢山話し合いをしたことで、アドバ

イスをお互い言えるようになった。話を作って子どもたちの前で行い大変だったことが、自信に繋がった。

- ◎・活動をする前には話をしたことがなかった人とも話せた。グループで動くことでその人の新しい一面が沢山みつげられた。
- ◎・あまり話すことができなかった友達もこれを機会に話すようになり「この人はこんな考えを持っているのだ」ということが分かった。

<③多少ではあるが変化があった>8人

- ◎・自分の考えていることを相手に伝えることで相手も自分に考えていることを伝えてくれるようになり、お互いのことを考えながら行動できるようになった。
- ・ひとりひとりが意見を出すことができたと思うので皆が少しでも自分の考えを人に伝えることができるようになったと思う。
- ・最初は話したことがない人とばかりグループになって怖かった。1人になりそうでどうしたら良いかわからずパニックになったが活動を通して仲間が大切だと思った。
- ・放課後、学校に残り練習をして団結した。初めて注意をし合った。(良いところと悪いところを言う時間を設けた)

<④全く変化がない>2人

- ・もめたが最終的にまとまったので良かった。チームで動くときは、協調性が重要だと思うし役割の責任を持つことが大切だと思う。
- ・皆意見を出し合い、良いものができた。楽しかった。

以上を見ていくと、①～④のアンケート結果とも個人の捉え方で人形劇の前後の成長の違いはあるが、自分の意見を相手に伝えることの難しさやグループでの折り合いの付け方など困難を体験し、そこからグループのメンバーと協力して人形劇を作り上げる達成感を感じていることが分かる。また、マイナスの意見としては「どのような性格なのか分かったこんな良い人が身近にいたことを感じたが、反面合わないと思う人も分かった」「活動を意識している人、していない人の差が激しい」という意見もあった。しかし、いずれも、まとまるようにしたいという前向きな意見も同時に書かれている。

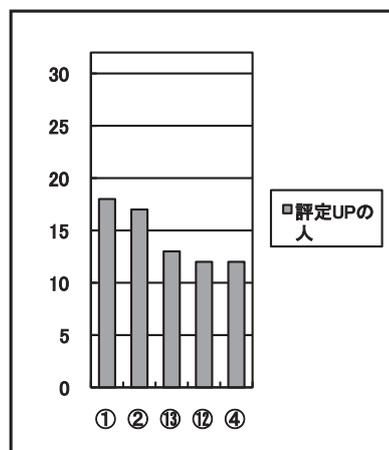
3.2 学生の人形劇を通しての人と関わる力14項目のアンケート結果

表2 項目ごとに見たポイント上昇者の人数 (学生32名中)

| | | | | | | |
|-----|-----|----|-----|-----|-----|----|
| ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ |
| 18人 | 17人 | 9人 | 12人 | 7人 | 9人 | 7人 |
| ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑪ | ⑫ | ⑬ | ⑭ |
| 9人 | 7人 | 6人 | 3人 | 12人 | 13人 | 3人 |

(1) ①～⑭項目で特に成長が見られた項目 (32名中、特にポイントが上昇した学生の項目)

- ①苦手な人、嫌いな人にでも自ら関わる (18人, 56.3%)
- ②グループ活動の時など自分の考えを相手に伝えている。(17人, 53.1%)
- ⑬グループでする活動を楽しめる (13人, 40.6%)
- ⑫悩んでいる時に人に相談できる (12人, 37.5%)
- ④自分と違う意見の人とも折り合いをつけることができる (12人, 37.5%)



グラフ 1 特に成長が見られた項目

以上の結果から、①「苦手な人、嫌いな人にでも自ら関わる」項目で18人の学生が事前よりポイントが伸びている。入学して、自分が苦手だと感じていたクラスメイトともグループで協力しなければ人形劇は完成しないことから、自分から歩み寄り関わっていく姿が見られた。また、②「グループ活動の時など自分の考えを相手に伝えている」項目も17人の学生に成長が見られた。このことから、活動を通して自分の思いを相手に伝え、より良いものにしたいという気持ちの効果があることも分かった。⑫の「悩んでいる時に人に相談できる」項目は、12人の成長が見られた。グ

ループのメンバーに制作における苦手な部分や話作り、練習をしていく際の悩みなど相談ができたグループの活動は、内容が深いものとなった。

(2) あまり成長がみられなかった項目

⑩人からしてもらったことに感謝の気持ちを持つ

(3人, 9.3%)

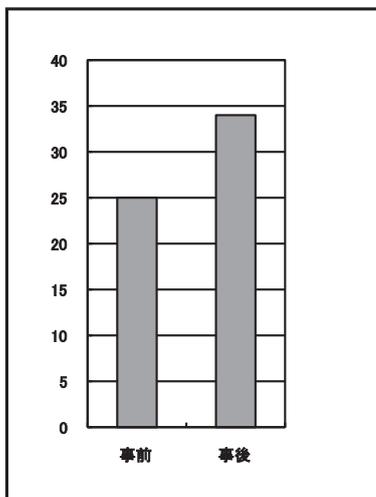
⑭掃除や行事などさぼらずに頑張る (3人, 9.3%)

以上の2項目の成長の伸びが少なかった。しかし調べた結果、⑩の「人に感謝の気持ちを持つ」項目や⑭の「掃除など毎日さぼらずに頑張る」項目のこの2項目は、もともとの数値が高く、それゆえポイントの上昇が少なかったと言える。

掃除や行事など自分がしないことで相手に迷惑をかけることはしたくないという意識は備わっていたことが分かる。

(3) もともとの点数が低く、伸びも少なかった項目

⑧相手の考えが間違っているとき、はっきりと伝えている。(9人28%) 人形劇活動を通して自分から関わろうとしている学生の人数は伸びていたが、「相手が間違っているとき、はっきりと伝えている」項目は、もともとの点数が低く、伸びも少なかった。この項目から、人形劇制作を通して、厳しい意見を伝えることの難しさを感じていることが分かる。活動を通して、自分の意見を積極的に述べる事が出来ない学生もおり、この項目は、就職をしてからの後輩の指導や先輩に意見を伝える際にも課題になっている。



グラフ 2 もともとの点数が低く伸びも少なかった項目

3.3 インタビュー

(1) インタビューの目的：インタビューは、アンケート項目だけでは、明らかにされていない人形劇制作のグループ活動が、うまくいかなかった理由を明らかにする為、うまくまとまらなかったグループと、意見がぶつかりながらもうまくまとまったグループを中心に行った。

(2) インタビューの内容：あらかじめ以下のような質問項目を準備したが、なるべく調査対象者が自らの経験に基づいて自由に話ができるようにした。

- ・うまくまとまらなかった時のグループの状態について
- ・うまくまとまらない時の自分の行動について
- ・うまくまとまらなかった時の他者への関わりについて
- ・ぶつかりながらもうまくまとまったグループはそのきっかけや理由 など

(3) インタビュー対象者：うまくまとまらなかったグループのリーダー、サブリーダー、メンバー (Aさん, Bさん, Cさん, Dさん) と、うまくまとまったグループのリーダー、サブリーダー、メンバー (Eさん, Fさん, Gさん) について見ていく。

なお、以下の記述中、インタビュー対象者の発言は「」内とし、インタビュアーによる補足は()、一部省略は・・・で示している。また、必要に応じて下線を用いている。

・うまくまとまらなかったグループ

以下にAさん, Bさん, Cさん, Dさん

Aさん：「みんなをまとめてみたいと思ってリーダーに立候補したのですが、いざ(人形劇の練習が)始まってみると初めは頑張ろうという気持ちで授業中は、話作りや人形作りをしていたんです。みんな自分の人形が段々できてくると、自分の顔に似てきて、嬉しくて頑張っていてやっていました。けれど、(授業中だけでは)練習する時間が足りなくて、初めは私もリーダーとして、メンバーに声を掛けていたんですが、アルバイトだから放課後残って練習できないと言われると何も言えなくなりました。・・・子どもたちに喜んでもらいたいという気持ちがあったけれど、メンバーがいなくて練習ができないし、結局皆に強い意見を言って嫌われるのが怖かったです。」

Bさん：「私も見ていて、Aさんが一生懸命声をかけているから、自分も頑張らないといけなくて思って声を掛けました。アルバイトを理由に帰っている人も、昼休みは練習できるから(昼休み)しようと言えば良かったのですが、なんかそれをいう事で、自分がえらいそうにしている、みんなに嫌われるんじゃないかと思

って・・・言えなかったんです。」

Cさん：「私は、ついアルバイトで逃げてしまっていました。アルバイトの時間を頑張ったら遅らすことはできたのにそれができなかった。人任せでした。私はつい人に頼ってしまうことが多いけれど、保育園に1日行ってみて、自分たちで作った人形劇を子どもたちがこんなに喜んでくれて・・・もっともっと練習すれば良かったと後悔しています。Aさんたちリーダーが練習しようとしていたのも分かっていたのに・・・申し訳なかったです。(授業中に)練習をしていた時、自分の考えも色々あって言っただけで強い言い方の人がいたから、自分の考えを否定されたみたいに思ってしまった・・・」

Dさん：「自分の考えを言う事で、グループのメンバーの関係が悪くなることが嫌で、Cさんに残って練習しようと言えなかったです。私は高校時代まで人となるべくぶつからないようにしていたから、自分の考えを人に伝えることが苦手でした。でもそれじゃだめなんだなって今回分かりました。」

うまくいかなかったメンバーの語りから、その理由が明らかになった。特徴的な意見としてAさん、Bさん、Dさんも述べているように「メンバーに嫌われることが怖かった、嫌であった為厳しい意見が言えなかった」という事である。本来、人形劇を制作する学生の目標は、子どもたちに喜んでもらうことであって、その為には、グループでお互いに思ったことを伝え合い、自分たちも成長することを人形劇制作活動のスタートに話している。しかし、実際は放課後に残ってお互いに練習することを伝えることができていない。正しいことを伝えようとしても、自分が発言することで、人にどのように思われるのかとても気にしていることが分かる。また、Cさんのように、自分が発言した言葉について意見を言われると、自分を否定されたようにとらえる学生もいる。Dさんは高校時代まで、友人とぶつからないようにしてきたことが分かった。Dさんのように今まで厳しい意見を伝えたり、ぶつかった経験がなければ、人に意見をすることは難しいと言える。保育者になった際にも、相手のことを思って厳しい意見を伝えることが多々ある。厳しい意見も言い合わない、より良い保育にはつながらないことから、養成校時代にグループで行う体験を授業で組み込み、話し合うきっかけを作っていく必要がある。

・うまくまとまったグループ

Eさん：「うちのグループは、初めは人形劇の話し方で結構もめました。私もリーダーだから自分で引張っていかないといけないと最初は思っていました。けれど、8人という多い人数をまとめていくのは、きついなと思ったんです。それで、サブリーダーのFさんに相談したんです。そしたら、話し合いの時、自分たちばかり話すのではなく、ひとりひとりの意見を聞いていこうっていうことになったんです。」

Fさん：「みんなの意見を聞いていくと、思いがけないアイデアが出てきて、すごいなと思いました。考えを聞くことで、この人こんな考え持っているんだと深く知っていきました。もっと色々話したいって思ったんです。」

Gさん：「人形劇の練習をしている時に、子どもたちと一緒に歌ってくれる歌を入れようということになって、真剣に替え歌を考えていたんです。やっている途中で、ふざける人がいてちょっとムッとしたんです。それが何回か続いたから、もやもやして、でもこれからもこのままの気持ちでは練習できないって思って、直接本人に言いました。そしたら、相手も分かってくれて、はっきり言ってくれてありがたうって言われて嬉しかったです。このことで、私たちのグループは、発表までの間何度か話し合い、その都度意見を言って、子どもたちが喜んでくれるように何度も練習をしました。保育園での発表では、子どもに喜んでもらえて、すごく達成感がありました。あのまま意見を言わずに何となく練習していたら、こんな気持ちにならなかったと思います。」

Eさん：「私たちのグループは、Gさんの件から、思ったことをお互い言っていこうということになりました。言いたいことを直接言い合ったことでお互いの関係も深くなりました。今では本当にこのグループで良かったと思っています。」

Fさん：「人形を作っていて、口を作るところがなかなかうまくいかなかったんですが・・・Gさんが得意で、コツを教えてくれ手伝ってくれました。人形がうまく作れるか不安だったけど、助けてもらって嬉しかったです。Gさんは怖そうに見えただけ優しいんだなと思いました。Gさんだけでなく、セリフを言うのがうまい人もいて、みんなそれぞれ特技があるなって思いました。」

うまくいったグループの意見から、「問題が出てきた時に、一人で抱え込まず、相談をすること」や「ひ

とりひとり意見を言い、思っていることを直接話し合っていること」が明らかになった。このグループは、もめていた時に、そのままにするのではなく、何度も話し合っている。お互い思ったことを伝えたことで、その後の活動がまとまり、保育園での発表も満足するものであった。Fさんが述べているように、お互い得意、不得意な部分があり、グループで活動を行うことで、お互い補い合っていることが分かる。保育者になった際にも、保育はひとりではできず、多くの職員と協力してはじめて、子どもが成長できる。以上のことを人形劇制作を通じて、学生自身が気が付く成果があった。

4. 今後の課題

アンケートの結果から、皆で同じ目的を持ち、悩みながらも作り上げていく過程で、グループにおいての自分の役割や一人でも欠けては、人形劇は成り立たない責任の重さを感じていることが分かった。1年次の人形劇制作の活動は「苦手な人、嫌いな人にでも自ら関わる」「グループ活動の時など自分の考えを相手に伝えている」「グループでする活動を楽しめる」「悩んでいる時に人に相談できる」など、グループ活動への参加意欲やコミュニケーション力などの資質向上に効果があったと言える。特に入学して間もない1年次は自分と仲の良い身近な友人としか関わっておらず、新しい人間関係が作れたことが有効であったとの意見が多かった。

しかし、グループの人数が8人という多さから、全ての人と関わるのが難しいことも分かった。1年前期の活動であることも踏まえ、今後グループの人数を少なく設定する必要がある。

また、人と関わる力のアンケートのもともとの点数が低く、伸びも低かった「相手の考えが間違っている時、はっきりと伝えている」という項目とインタビューで明らかになった「嫌われるのが嫌で厳しい意見を言うことができなかった」という項目の学生の意見は共通しており特に気になるものであった。今回の調査を通し、「今まで人に意見を言ってきていないからこそ言いづらい」という学生の苦しみが明らかになった。その部分こそ、保育者になった際、重要になってくる部分である。日々、子どもにとってどのような関わりをしていくことが良いのか、お互いの保育を指摘し合い、意見を伝え合うことは、より良い保育をしていくことが求められる保育者にとって重要なことである。

保育者養成校の時代にもこのようにお互いがぶつかり合い、話し合うきっかけになるような授業や行事を意図的に入れていくことの必要性が分かる。

今回、授業の途中で話し合いの機会を設けることができなかった。お互いが何を感じ、何に悩んでいるのか終了してからの振り返りだけでなく、途中で話し合う時間をとっていくことが、今後の課題である。

1) <人形劇製作・活動全体におけるアンケート>

(1) 人形劇製作・練習・保育園での発表を通して行う前と後でクラスメイトとの関わりは変わりましたか。

- ①：変化がとてもあった
- ②：変化があった
- ③：多少ではあるが変化があった
- ④：全く変化がない

(2) ①～③の人は人形劇を行ってどのような変化がありましたか。④の人は活動を通じて感じたことは何ですか。(自由記述)

2) <人と関わるアンケート>

(1) 人形劇を行う前と後での人と関わる力14項目についてのアンケート

- ◎：とても備わっている
- ：ある程度備わっている
- 無印：備わっていない

() 0点, (○) 1点, (◎) 2点の3段階で自己評価

- ① 苦手な人、嫌いな人にでも自ら関わる。
- ② グループの活動の時など自分の考えを相手に伝えている。
- ③ 相手が言うことを聞こうとしている。
- ④ 自分と違う意見の人とも折り合いをつけることができる。
- ⑤ 自分の都合だけでなくグループ全体の都合を優先している。
- ⑥ 自分の考えが間違っていると感じたら素直に謝る。
- ⑦ 自分と違う考えの人を頭から否定せずにもしかしたらそちらが正しいかもしれないと考える。
- ⑧ 相手の考えが間違っている時、はっきりと伝えている。
- ⑨ 困った人がいたら助けている。
- ⑩ 約束を守っている。
- ⑪ 人からしてもらったことに感謝の気持ちを持っている。

- ⑫悩んでいる時に人に相談できる.
- ⑬グループでする活動を楽しめる.
- ⑭掃除や行事などさぼらずに頑張る.

田中敏明「保育者として高まるための自己診断160」⁶
を基に作成

Received date 2012年7月24日

引用文献

1. 文部科学省（2002）「幼稚園教員の資質向上に関する調査研究協力者会議報告書」
2. 厚生労働省（2008）「保育所保育指針」
3. 川俣 美砂子（2010）「幼稚園教諭のキャリア形成に関する研究－養成課程の現状と課題」（福岡女子短期大学紀要）第73巻， p 45.
4. 善本 眞弓, 善本 孝（2008）「保育学生の社会的スキル－保育学生の特徴と保育者養成の求められる教育－」（横浜女子短期大学紀要）第23号p34.
5. 熊田 武司（2005）「保育者養成における人形劇制作の一考察-児童文化研究「人形劇脚本」の変遷から-」（岐阜聖徳学園大学短期大学紀要）第37号p43.
6. 田中敏明（1998）『保育者として高まるための自己診断160』

参考文献

1. 米谷 淳, 棚橋 美代子, 向平 知絵（2008）「保育者養成における人形劇の活用」（京都女子大学発達教育学部紀要）第4巻 p p 29－39.
2. 谷 富夫, 山本 努（2011）『よくわかる質的社会調査 プロセス編』（ミネルヴァ書房）
3. 河西 宏祐（2005）『インタビュー調査への招待』（世界思想社）
4. 保育学研究会（2001）「保育学研究－保育者の専門性と保育者養成－」第39巻 第1号
5. 保育学研究会（2004）「保育学研究－人的環境としての保育者－」第42巻 第1号
6. 保育学研究会（2008）「保育学研究－保育者相互の支え合い－」第46巻 第2号
7. 浅見 均（2000）「保育者の資質に関する一考察-保育現場から見た保育者の資質」（青山学院女子短期大学紀要）第54巻pp121－150.